

# 公演のお知らせ

市役所文化振興課 ☎ 055-948-1428  
 アクシスカつらぎ ☎ 055-948-0225  
 葦山時代劇場 ☎ 055-949-8600

チケット  
好評販売中

ミュージカル

## ピーターパンとウェンディ



とき／3月20日(日・祝) チケット／【全席指定】一般1,000円 中学生以下500円  
 ※3歳以上は有料。3歳未満は保護者のひざ上1名無料。  
 開場10:00 開演10:30 チケット販売所／▶葦山時代劇場▶アクシスカつらぎ  
 ところ／葦山時代劇場 ▶ローソンチケット(Lコード:45192)  
 大ホール ▶チケットぴあ(Pコード:447-622)

### 図書館だより

今月のおすすめ ～安楽椅子探偵～

現場に行くことなく、人の話などの数少ない情報から、推理して謎を解くスタイルのミステリー小説です。



『腕貫探偵』西澤保彦(著) / 実業之日本社

大学、病院、さまざまな場所に、突如現れる「市民サービス課臨時出張所」。相談事を解決するのは、腕貫をはめた出張所職員。個人的悩みもOK。続編もあり。

【全館】

『ミステリーなふたり アラカルト』太田忠司(著) / 東京創元社

愛知県警の美貌の敏腕警部補・景子。難事件解決の陰には、料理も推理もプロ級の旦那さま・新太郎くんあり。前作「ミステリーなふたり」は長岡図書館所蔵。【中央】

■『嫁洗い池』芦原すなお(著) / 文藝春秋【葦山・長岡】料理と推理の腕が冴える妻。

■『ふたたびの虹』柴田よしき(著) / 祥伝社【全館】小料理屋の女将が客の悩みを解決。

■『空飛ぶ馬』北村薫(著) / 東京創元社【長岡】落語家・円紫シリーズ。続編あり。

■『Rのつく月には気をつけよう』石持浅海(著) / 祥伝社【中央】友人三人が集まり。

図書館ホームページ <http://www.izunokuni.library-town.com/> ☎ 中央図書館 ☎ 0558-76-5566

3月の休館日	中央図書館 7日(月)、14日(月)、21日(月・休)、25日(金)、28日(月)	葦山図書館 2日(水)、9日(水)、16日(水)、21日(月・休)、23日(水)、25日(金)、30日(水)	長岡図書館 7日(月)、14日(月)、21日(月・休)、22日(火)、25日(金)、28日(月)
--------	-------------------------------------------	--------------------------------------------------------	--------------------------------------------------

### ■利用者用検索端末をご活用ください

パスワードがあれば、図書館内の利用者用検索端末(館内OPAC)で、予約、貸出・予約状況確認や予約の取り消し、パスワード・メールアドレスの変更などができます。パスワードは、利用者カードと身分証明書があればカウンターで発行します。



図書館カレンダー  
モバイル版QRコード



# 文化財通信

その129

## 水戸藩の那珂湊反射炉 (その1)

市役所文化財課 ☎ 055-948-1428

葦山反射炉が築造された江戸時代末期には、他にも各地で反射炉が造られました。佐賀藩や薩摩藩、長州藩など、西南雄藩が築造したものが中心ですが、御三家のひとつである水戸藩も反射炉を築造しています。



那珂湊反射炉実物大模型 (茨城県ひたちなか市教育委員会提供)

水戸藩第9代藩主徳川斉昭は、海防体制の充実を図るため、早くから青銅製の大型砲を製造し、嘉永6年(1853)のペリー艦隊来航後には、幕府に74門の青銅砲を献上するなど、精力的な活動を見せていました。しかし、材料となる銅が底を尽き、青銅砲の増産が困難になったこともあり、斉昭は反射炉による鉄製砲の製造を目指します。

斉昭は、反射炉築造を担当する技術者として、南部藩士大島高任・三春藩士熊田嘉門・薩摩藩士竹下矩方を招聘。安政元年(1854)8月22日、那珂湊(現茨城県ひたちなか市)において着工、工事を指揮した大工棟梁飛田弥七や、耐火煉瓦の製

造を担った瓦師福井仙吉らの尽力もあり、翌安政2年11月に1号炉が竣工しました。

竣工した1号炉では、安政3年(1856)3月から、出雲国(現島根県)産の銑鉄を材料とした小型のモルチール砲など、数門の鉄製大砲の製造が行われました。しかし、砂鉄由来の銑鉄は大砲製造には向かず、実用に耐える性能を得ることは

難しかったようです。これは、葦山反射炉でも直面した問題でした。この問題の解決には、鉄鉱石を原料とする銑鉄が必要だと考えた大島高任は、鉄鉱山のある南部藩において高炉の建設に取り組み、安政4年(1857)12月1日、洋式高炉で磁鉄鉱の製錬に成功。大島は、さらに橋野高炉の建設を指揮し、安政5

年、操業に漕ぎ着けたうえで那珂湊反射炉に戻りました。南部産銑鉄が、葦山反射炉でも使われたことは、前回までで紹介したとおりです。

南部産銑鉄が那珂湊に到着したのは、安政5年(1858)4月。那珂湊反射炉では既に2号炉が竣工しており、同年5月から6月にかけて、鉄製カノン砲の製造が実施されています。鉄製砲製造の目的が立ったことから、水戸藩では7月7日に祝宴が開かれました。ところが、その祝宴の最中、「徳川斉昭謹慎」の報がもたらされました。

斉昭は、大老井伊直弼が天皇の勅許(注)を受けずに日米修好通商条約を締結したことに激怒し、正式な登城日でない6月24日に江戸城に登城して、井伊直弼に抗議したのです(不時登城事件)。將軍継嗣問題でも斉昭と対立していた井伊直弼は、この不時登城を理由に、斉昭を謹慎処分(後、水戸城での禁固)としました。このことにより、那珂湊反射炉も閉鎖を余儀なくされてしまいます。

(その2)に続く  
(注) 勅許 天皇の許可